

イネいもち病の発生状況と防除対策

葉いもちの発生ほ場が散見されるため、今後、出穂期を迎える一部のほ場では穂いもちの発生が懸念されます。

つきましては、以下のとおり防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況 (葉いもち)

- (1) 7月26日～28日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率は26.7% (平年19.6%)、発病株率11.2% (平年7.4%)、発病度2.8 (平年2.0) で平年に比べやや多かった(図1, 2)。
- (2) 葉いもちの発病株率は、中旬(7月12日～14日)調査の2.8%から11.2%へ増加した。
- (3) 一部地域において、ずり込み症状が確認されている。

2 今後の予想 (穂いもち)

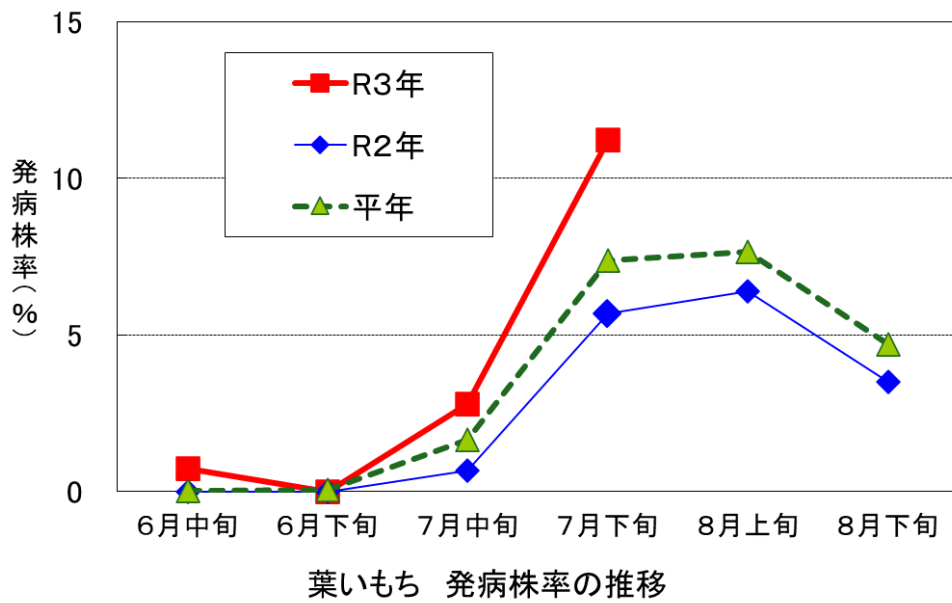
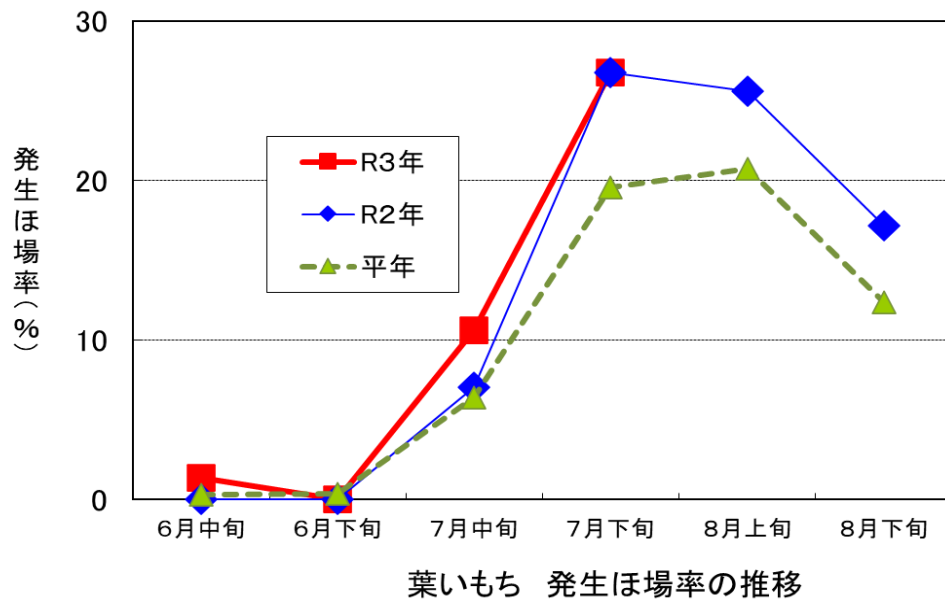
- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生量 **やや多**
今後1か月の気象予報では、気温、降水量および日照時間はほぼ平年並と予想されていることから、本病の発生は抑制されると考えられるが、一部の葉いもち発生ほ場においては今後穂いもちの発生が懸念される。

3 防除対策

- (1) 出穂前のほ場で上位葉に葉いもちが発生している場合は、直ちに防除を行う。
- (2) 穂いもちの防除は粉剤・液剤では穂ばらみ後期及び穂揃期の2回行い、粒剤・パック剤では出穂前に施用する。
- (3) 防除薬剤は、令和3年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準を参照する。
(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/002mokuji.html>)

4 防除上注意すべき事項

- (1) 各ほ場の出穂期に注意し、穂いもちの防除適期を逃さないようにする。
- (2) 粒剤・パック剤は、薬剤によって使用時期が異なるので注意する。
- (3) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の7日～10日後に再度防除する。
- (4) 農薬のラベルに記載の使用時期等の農薬使用基準を遵守する。
- (5) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。



葉いもちの上位葉での発病



進行型病斑



穂いもち(穂首いもち)の症状